

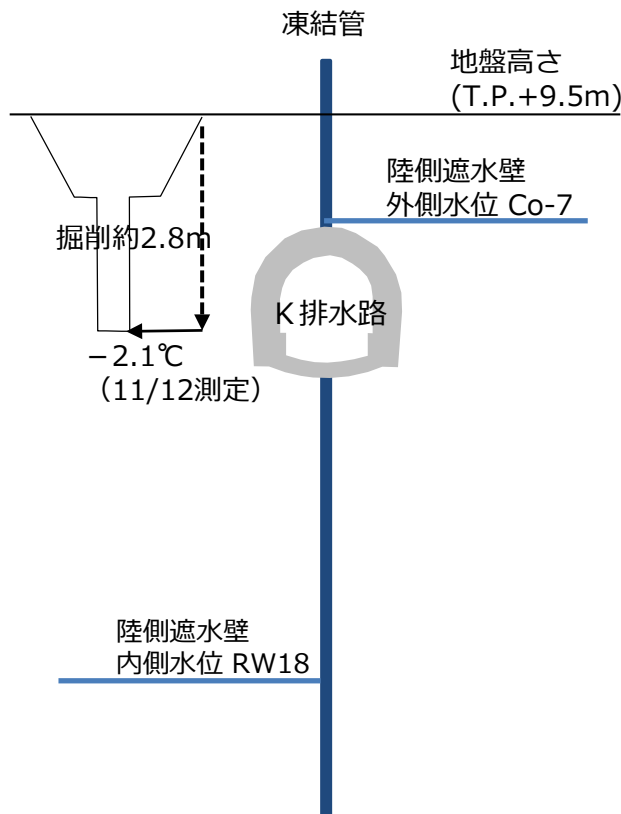
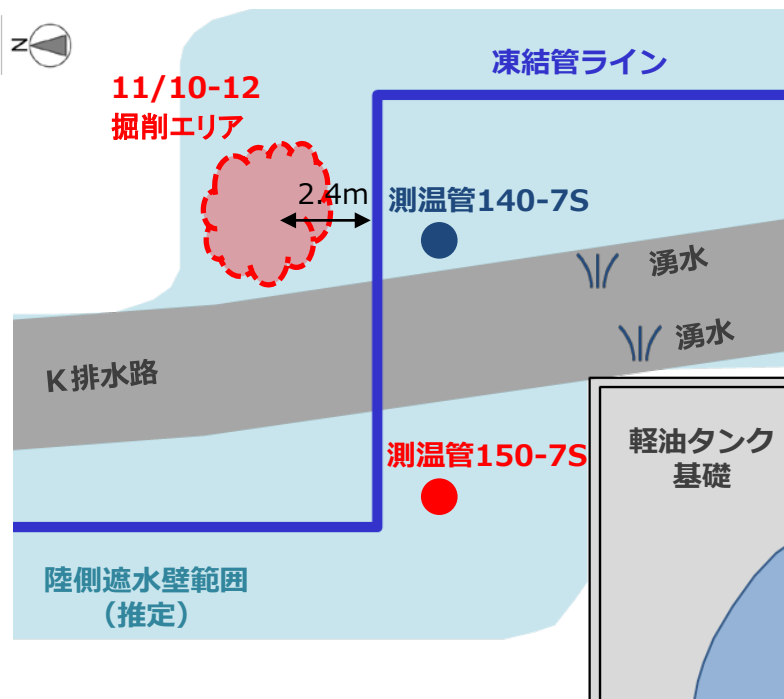
- 陸側遮水壁の維持管理については、測温管による地表・地中温度を参考に監視しておりますが、10月13日に、K排水路交差付近（下流部）の測温管150-7Sにて、地中に3m（地表下1.0m～4.0m付近）の区間で局所的に0℃を超過している状態が継続されていることを確認しました。
- 地下水位に変化は無く、内外水位差は確保されていることから、陸側遮水壁の遮水機能に影響はないと評価しております。 <[2021年10月28日 お知らせ済み](#)>
- 11月1日からK排水路の補強箇所区間をドライアップし、11月2日～3日にかけて、K排水路補強部付近を調査した結果、補強部上流側にクラック有り（長さ：約1.0m、幅：5mm）および補強部下流側に地下水の流入を2箇所確認しました。
- 今後、測温管150-7S近傍の凍結管ライン外側および陸側遮水壁内側を掘削し、地盤の調査や同遮水壁が健全であることを確認してまいります。
<[2021年11月1,4日 お知らせ済み](#)>
- 本調査については、陸側遮水壁の地盤の状態を確認するために陸側遮水壁内側から行います。なお、陸側遮水壁内側は地下水位が低く、内側表層部は固結度が低い可能性があります。地盤の性状や地下水位の有無、または地中温度の計測等で評価してまいります。その調査手法の妥当性を確認した後に、陸側遮水壁外側の調査を行う予定としております。

<[2021年11月10日 お知らせ済み](#)>

- 11月10日から11月12日にかけて実施した陸側遮水壁内側の地盤の掘削調査の結果、深度-2.7m付近より深部では地中温度が0℃以下であること、および、掘削調査範囲では地下水が無いことを確認しました。この調査結果に加え、内外水位差が十分に確保されていること、サブドレンの汲み上げトレンドに変化がないことから、陸側遮水壁は正常に機能していると評価しております。
- 本日（11月15日）から11月19日にかけて、陸側遮水壁外側の地盤、地下水の状況を確認するため、陸側遮水壁外側の掘削調査を実施します。
- また、11月13日朝、測定温度の定例確認において、測温管150-7SのT.P.+ 4.5m～5.5m、T.P.+ 5.5m～6.5m、6.5m～7.5mの測定値に温度上昇があることを確認しました（5スライド参照）。その後、有意な温度変化はありません。
- 温度上昇は、測温管150-7Sのみで、周辺測温管140-7S、160-7Sには変化はありません。なお、内外水位差が十分に確保されていること、サブドレンの汲み上げトレンドに変化がないことから、遮水性は確保していると評価しております。

陸側遮水壁内側の調査状況

- 掘削深さ-2.7m付近より深部にて地中温度が0℃以下であることを確認しました。
- 陸側遮水壁内側エリアの掘削範囲において地下水は確認されませんでした。
- この調査結果に加え、内外水位差が十分に確保されていること、サブドレンの汲み上げトレンドに変化ないことから、陸側遮水壁は正常に機能していると評価しております。



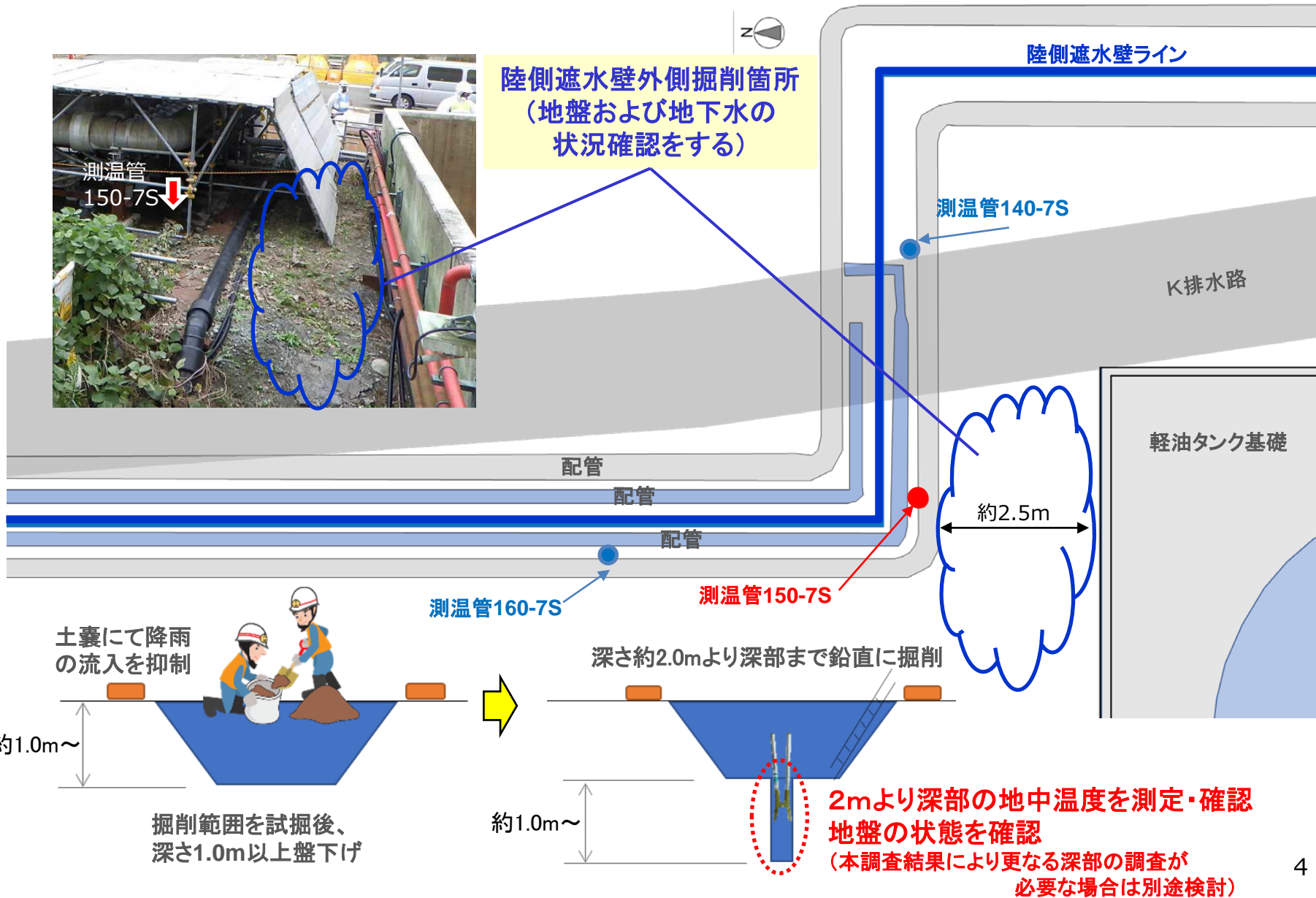
ダブルスコップにより掘削した土
G.L.-2.6m付近

掘削深さ (m)	T. P (m)	地中温度 (°C)
G.L.+0.00	T.P.+9.00	18
G.L.-1.50	T.P.+7.50	6.1
G.L.-1.80	T.P.+7.20	5.1
G.L.-2.55	T.P.+6.45	0.3
G.L.-2.70	T.P.+6.30	-0.9
G.L.-2.80	T.P.+6.20	-1.6
G.L.-2.84	T.P.+6.16	-2.1

地中温度は、温度計を掘削箇所にて埋設して計測



陸側遮水壁外側掘削箇所
(地盤および地下水の
状況確認をする)



参考) 測温管150-7 S及び周辺測温管の温度経時変化 (表層抜粋)

